





図書館のお仕事が体験できるよ!

市内の4年生以上の  
小学生対象

# 図書館子ども探検隊 募集のお知らせ

毎年恒例の人気行事、「夏休み図書館子ども探検隊」の募集が始まります。  
図書の本出し・返却だけでなく、本にバーコードを貼ったり、ブックポストの整理、紙芝居の実演など  
ふだん触れることのない図書館の”裏側”を探検しながら、図書館のお仕事を体験してみませんか？

**実施日** 7月29日(火)・30日(水)・31日(木)  
8月 5日(火)・12日(火)・13日(水)・19日(火)・20日(水)

**時間** 9時～12時

**申込み** 往復はがき(7/11(金)消印有効) ※応募者多数の場合は抽選

★詳細は...  
広報ぬまづ、チラシ、  
図書館ホームページ



本に所蔵印を押して、  
バーコードラベルを  
貼ります！  
まっすぐ貼るのは  
ちょっと難しい...？



子ども達を前に、紙芝居をします。  
ドキドキの体験です。

## 「おはなしの会」のお知らせ

おはなしふくろう

7月 5日(土)  
8月 2日(土)  
9月 6日(土)

アンの部屋

7月12日(土)  
8月 9日(土)  
8月30日(土)

ラディッシュ

7月19日(土)  
8月16日(土)  
9月20日(土)

グループあおむし

7月26日(土)  
8月23日(土)  
9月27日(土)

あかずきんちゃん

7月20日(日)  
8月17日(日)  
9月21日(日)

午後2時から  
おはなしの部屋  
です！



# 新着図書のご案内

新着図書の中から一部をご紹介します。  
また、図書館ホームページや館内の検索用  
パソコンでも見ることができます。

沼津市立図書館

検索 

## 【一般書】

★ 誤解学	西成 活裕／著	新潮社
★ 図説英国紅茶の歴史	Cha Tea紅茶教室／著	河出書房新社
★ 屋根の日本建築	今里 隆／著	NHK出版
★ 林業男子	山崎 真由子／著	山と溪谷社
★ 風	青山 七恵／著	河出書房新社
★ 盲目的な恋と友情	辻村 深月／著	新潮社
★ 虚ろな十字架	東野 圭吾／著	光文社
★ 決断	小杉 健治／著	双葉社
★ 女系の総督	藤田 宜永／著	講談社
★ 寂聴まんだら対談	瀬戸内 寂聴／著	講談社
★ ランサローテ島	ミシェル・ウエルバック／著 野崎 歓／訳	河出書房新社

## 【児童書】

☆ てがみぼうやのゆくところ	加藤 晶子／作	講談社
☆ ながねぎきょうだい	中川 ひろたか／文 鈴木 真実／絵	童心社
☆ 手作り小路のなかまたち	新藤 悦子／著 河村 怜／絵	講談社
☆ なりたい二人	令状 ヒロ子／作	PHP研究所
☆ ここにいるよ！ナメクジ	皆越 ようせい／写真・文	ポプラ社

## 「予約の多い本」の寄贈のお願い



図書館では、図書などの予約サービスを行っておりますが、人気があり予約の多いものは利用者の皆様に何ヶ月もお待ちいただくこともあります。購入冊数にも限りがあるため、読み終えてご不用になった本がございましたら、ぜひ図書館にご寄贈くださるようお願いいたします。

今回、寄贈していただきたい本は下記の本です。皆様のご協力をお願いします。

書名	著者	出版社
村上海賊の娘(上・下)	和田 竜	新潮社
豆の上で眠る	湊 かなえ	新潮社
女のいない男たち	村上 春樹	文藝春秋
ケモノの城	誉田 哲也	双葉社



### 【寄贈受付場所】

- 沼津市立図書館
- 沼津市立戸田図書館

# 郷土ゆかりの作家たち

## (6) 明石 海人(あかし かいじん) ～ハンセン病患者の心情を世に訴え続けた歌人～

明石海人は、昭和初期に活躍した沼津出身の歌人です。1901年駿東郡片浜村（現沼津市）に厳格な父「浅次郎」と教育熱心な母「せい」の三男「勝太郎」として生まれました。

1907年には片浜尋常小学校へ入学し、沼津商業高校、静岡師範学校へと進学します。

卒業後は教員となり、富士や沼津の小学校で教鞭を執りました。

また、教師として働くかたわら海人は画塾へも通っており、芸術分野に対して強い関心を持っていたことが伺えます。

1924年には結婚し、子供にも恵まれます。しかし、それから程無くして海人はハンセン病であると診断されます。

ハンセン病とは、末梢神経の麻痺や皮膚に発疹ができる等の特徴を持つ感染症です。特効薬の無い当時、ハンセン病は不治の病と言われていました。さらに、感染力の強い病気と誤認されていたこともあり、患者たちは、いわれのない差別に苦しめられました。

ハンセン病の発覚後、海人は一人各地を転々とし、最終的には岡山県の国立療養所「長島愛生園」にとどまるのですが、この療養生活中に短歌や俳句の創作に取り組むようになります。

なかでも短歌は、改造社から出版された「新万葉集」へ作品が11首掲載されるなどし、海人の文学性は高く評価されました。

さらに1939年2月には個人歌集「白描」を発表し、空前のベストセラーとなります。海人のハンセン病について詠んだ歌は単なる闘病歌にとどまらず、その芸術性は各方面諸家に絶賛されたのでした。

しかし、その頃病状は一段と深刻になっており、「白描」の発表からわずか4ヵ月後の1939年6月に37歳という若さで海人はその生涯を閉じます。

このように、海人の創作期間はとても短いものでしたが、その間にいくつもの歌を生み出しハンセン病に苦しむ人々の生活や心情を世に訴え続けたのです。

歌集「白描」の序文に、このような言葉があります。

『深海で生きる魚族のやうに、自らが燃えなければ何處にも光はない』

海人が想像を絶する苦境の中で残したこの言葉は、今なお多くの人に語り継がれ、勇気を与え続けていることでしょう。



▲海人の歌が刻まれた石碑

(沼津商業高等学校敷地内)

「わが指の頂にきて金花蟲(たまむし)の けはひはやがて羽根ひらきたり」

### 参考文献

- 『現代短歌大辞典』 篠 弘, 馬場 あき子, 佐佐木 幸綱/監修  
『現代短歌鑑賞辞典』 窪田 章一郎, 武川 忠一/編  
『慟哭の歌人 明石海人とその周辺』 松村 好之/著  
『日本近代文学大辞典』 日本近代文学館/編  
『白描』 明石 海人/著

